

片づけのアイデア帖

第13回

子どもが自分の部屋をある程度片づけてくれたら、毎日のお掃除はとても楽ですね。初めは一緒に片づけをしながらの習慣作りをしましょう。

子どものものは
子どもの目線に

デスククリーナーやコンセントにつながらなくてもほこりが取れるハンディモップなど、子ども専用の掃除用具を用意してあげるのもお勧めです。初めのうちは一緒に片づける練習をしながら、徐々に習慣にいきましょう

誰でも初めてすることは教えてもらわなければ分かりません。子どもに自分の身の回りのことができるようになってほしいと思ったら、初めはその仕組みやルールを親が作ってあげるとよいでしょう。仕組みやルールを作るのは、子どもに自分のスペースを与えたとき。例えば、学習机を買ってあげたときや、自分のお部屋をあげたときがよいタイミングです。道具を使い終わったら元の場所に片づける。ゴミはすぐにゴミ箱に入れるなどの基本的なルールを教えます。自分で自分の部屋の掃除ができるようになって欲しいと思ったら、子どもでも手軽に使えるような簡単なお掃除セットを準備して、どこにどのタイミングで使うのかを教えます。ゴミが溜まったら誰が捨てるのかなど話しておくといいてすね。

暮らしと健康の月刊誌

ケア

4 2017 April



おうちで、やってみてね!!

特集
●薬剤耐性菌 ●変形性肘関節症
●脳ドックのすすめ
●高齢期の住まい ●フレイル

4月号・子ども部屋の整理

【記事監修】

おうちスタイリスト®
米村 大子



キレイが、そのまま「暮らし」になる

OuchiStyle Sapporo

札幌のおうちスタイリスト・整理収納アドバイザー米村大子ホームページ

「思い出BOX」に入れるのは…
●普段は使わないもの
●残しておきたいもの
●分類に困ったもの など
一定の量しか入らないので、いっぱいになってきたら見直します

旅行用などで、家族共有のBOXを作ってもOK

仕組みやルールを作るのは
初めは親の仕事

教えてくれたのは…
整理収納アドバイザー 米村 大子さん
おうちスタイル札幌 代表 / 整理収納アドバイザー1級・宅地建物取引士
お片づけレッスンや終活講座、企業・個人宅での整理収納サービス、高齢者の住居へのアドバイスや整理収納サービスなどを手掛ける「おうちスタイル札幌」として道内外で活躍中。

おうちスタイル札幌 検索

自分の思い入れがあるものはなかなか捨てにくいですよね。誰にでも捨てにくいもの、捨てにくいものはあるので、そういうものを無理に捨てる必要はありません。そこで役立つのが人別の「思い出BOX」です。大きさは収納する場所にもよりますが、押し入れのサイズが使いやすいでしょう。普段は目につかないところに置いて増やすときや見たいときに出します。いっぱいになっても増やしたいときは、何かと入れ替えましょう。

1人に1つ
思い出BOX